



巻頭言

産婦人科 教授 / おおつき かつふみ 大槻 克文



「女性と子どもにやさしい産婦人科を目指して」

当院は2014年3月に「女性と子どもにやさしい病院」をキャッチフレーズとして開院しました。現在は①妊産婦さんへの対応、②婦人科良性疾患への対応、③不妊相談から体外受精までの対応、の3つの柱を中心に対応しております。

①妊産婦さんへの対応：

開院当初はハイリスク妊婦さんを含めた妊娠・分娩管理を中心に医療を開始。現在では胎児の形態評価を目的とした胎児超音波検査や、染色体や遺伝子の変化を見る遺伝学的検査などの出生前診断を行っています。母体血を用いた新型出生前検査（NIPT）についても認証医療機関（基幹施設）として実施しており、適切な遺伝カウンセリングを行ったうえで検査を提供しています。さらには、妊産婦さんのご要望に応えるため、無痛・和痛分娩の受け入れ枠を拡大し、2026年4月からは初産の方に対する無痛分娩も開始しております。また、当院での妊婦健診への通院が困難な方の利便性を考慮し、職場や自宅近くの連携クリニックで妊婦健診を受け、分娩は当院で行う「セミオープンシステム」を導入しています。さらに、里帰り分娩を希望される方を対象に、妊婦さんの緊急時にも対応できる「セミ里帰り登録制度」を採用し、地域に居住する妊婦さんへの安心を提供出来るよう努めております。

②婦人科良性疾患（子宮筋腫・良性卵巣腫瘍・骨盤臓器脱など）への対応：

これらに対しては低侵襲な治療を提供するため、腹腔鏡手術・子宮鏡手術およびロボット支援下手術を積極的に取り入れています。また子宮外妊娠や卵巣腫瘍茎捻転など緊急手術にも対応をしています。これらの診療に際して、日本産婦人科内視鏡学会認定の腹腔鏡技術認定医・子宮鏡技術認定医・ロボット手術技術認定医が携わることで安全で確実な手術を提供し、最新の医療技術と知識を取り入れています。また、骨盤臓器脱に関しては治療成績も良く合併症が少ないとされている仙骨腔固定術を多く行っております。比較的新しい術式で施行できる施設が限定されますが、日本女性骨盤底医学会の専門医が携わることで適切な治療を提案しています。

③不妊相談から体外受精まで：

先進医療であるタイムラプスインキュベーター、PICSI、ZyMot等にも対応しており、最新の設備を整えて診療にあたっています。また痛みを配慮した卵管造影検査にも定評があります。卵管形成術をはじめ、妊孕性温存術にも対応しています。

周産期センターを有する大学病院（総合病院）としての強みを生かし、女性のトータルなサポートが提供できるように引き続き努力して参ります。



第146号のトピックス

- ・巻頭言（産婦人科）
- ・公開講座連携記事（脳神経外科）
- ・江東区救急業務連絡協議会で功労賞を受賞しました
- ・放射線技術部紹介
- ・看護の日のイベントを開催いたしました
- ・ご意見・ご要望
- ・編集後記

公開講座連携記事（脳神経外科）

脳神経外科が担う役割と脳卒中への備え — 公開講座「頭痛について」に寄せて —
昭和医科大学江東豊洲病院 脳神経外科のご紹介と市民公開講座のご案内

脳血管センター長、脳神経外科診療科長 / すぎやま たつや 杉山 達也

脳神経外科は、脳や神経という生命維持に不可欠な部位を専門とする診療科です。その手術には極めて高い専門性と精密な技術が求められます。代表的な治療法の一つが、頭蓋骨を開いて脳を直接見ながら行う「開頭手術」です。くも膜下出血の原因となる脳動脈瘤には、瘤の根元をチタン製クリップで挟んで破裂を防ぐ「開頭クリッピング術」が広く行われており、再発リスクが低い確実な治療です。また、頸動脈に溜まった動脈硬化の塊を除去して脳梗塞を防ぐ「頸動脈内膜剥離術（CEA）」や、不足している血流を補うために頭皮の血管を脳の血管へ繋ぐ「バイパス術」などは、脳梗塞の再発予防に効果を発揮します。近年では、カテーテルを用いた血管内治療や内視鏡による低侵襲手術、顕微鏡やナビゲーションシステムの活用により、正常な組織への負担を最小限に抑える工夫がなされています。

こうした高度な治療技術の一方で、患者さんご自身が異変に気づくことも重要です。脳疾患の代表的なサインが「頭痛」です。多くは片頭痛や緊張型頭痛といった日常的なものですが、中には注意を要するケースがあります。特に「突然の激しい頭痛」や「しびれ・意識障害」を伴う場合は、脳の血管が詰まる「脳梗塞」、血管が破れる「脳出血」や「くも膜下出血」といった、いわゆる「脳卒中」の可能性を否定できません。脳卒中は一分一秒を争う病気であり、早期発見・迅速な治療がその後の予後を大きく左右します。

しかし、何より大切なのは「予防に勝る治療はない」ということです。日常の些細な不調から脳の重大なリスクを察知し、日々の生活で予防を実践することが、将来の安心へと繋がります。

そこで昭和医科大学江東豊洲病院では、2026年6月7日（日）に公開講座「頭痛について ～脳卒中を含めたおはなし～」を開催いたします。当院9階講堂にて、専門医が実践的な予防知識を分かりやすく解説します。後半には質疑応答の時間も設けておりますので、日頃の不安を解消する機会として、ぜひお気軽にご参加ください。皆様のご来場を心よりお待ちしております。

Report

江東区救急業務連絡協議会で功労賞を受賞しました

救急外来・田中 祥乃 看護師が長年にわたり救急医療に従事し地域住民の安全・安心に寄与したとして、その功労を称えられ、4月23日に開催された江東区救急業務連絡協議会において表彰されました。

当院は急性期医療を担う地域中核病院として、職員一同より一層の研鑽に努めてまいります。



左から江口救急副センター長、横山病院長、田中看護師、原看護師、佐々木救急センター長、

2026年4月より放射線技術部の責任者を務めております、診療放射線技師の中井 雄一と申します。放射線技術部では、4月に1名の新入職員を迎え、現在27名の診療放射線技師が在籍しております。私たちは、医師、看護師、薬剤師、臨床工学技士、事務職員をはじめ、さまざまな医療スタッフと連携しながら、一般撮影（レントゲン）、乳房撮影（マンモグラフィ）、骨塩定量検査（骨密度測定）、X線透視検査、CT検査、MRI検査、血管撮影、核医学検査、放射線治療などを担当しています。

放射線技術部の役割は、病気の発見や治療に必要な「画像」を提供することです。患者さんに安心して検査を受けていただき、医師が正確に診断できる画像を撮影するため、日々工夫を重ねています。

今回は、MRI検査についてご紹介いたします。

MRI検査は、強い磁石と電波を使って体の中を詳しく調べる検査です。放射線を使用しないため、放射線による被ばくがない検査であり、脳や脊椎、関節、内臓など、さまざまな病気の診断に役立っています。一方で、MRI検査は大きな音がすることや、狭い機械の中で一定時間静止していただく必要があるため、不安を感じる患者さんも少なくありません。そのため、検査前には診療放射線技師が検査内容を分かりやすく説明し、安心して検査を受けていただけるよう心掛けています。また、体の中に金属が入っていないかなど、安全確認も丁寧に行っています。さらに、患者さんの状態に応じて姿勢の調整やお声掛けを行いながら、できるだけ負担の少ない検査となるよう努めています。

近年の医療では、チーム医療の重要性がますます高まっています。

診療放射線技師も、医師や看護師をはじめとした多職種と連携しながら、患者さんにとって最適な検査・治療を提供できるよう努めています。また、大学病院として「診療」「教育」「研究」に取り組みながら、より良い医療の提供を目指しています。

これからも放射線技術部は、病院理念である「まごころの医療」「安全・安心の医療」を大切に、患者さんに寄り添うことのできる診療放射線技師を目指してまいります。どうぞよろしくお願いいたします。

右写真：3T MRI装置





Report

看護の日のイベントを開催いたしました

5月12日の「看護の日」にあわせ、イベントを開催いたしました。当日受診に来られた患者さんに看護をより身近に感じていただけるよう、今年度は血圧測定と血糖測定を実施いたしました。お立ち寄りいただいた患者さんの健康相談に応じながら、看護師との交流を深める貴重なひとときとなりました。



ご意見・ご要望

<p>感謝</p> <p>以前入院した際は、看護師さんがとても明るく対応してくださり、元気をいただきました。ありがとうございました。また、再入院した際も、看護師さんが大変丁寧で知識も豊富で、どのような質問にも細かく説明してくださり、安心して過ごすことができました。</p>	<p>回答</p> <p>お礼のお言葉を頂戴し、誠にありがとうございました。闘病生活の中、私たち医療者の接し方や説明により、安心して入院生活をお過ごしいただけたのは、本当によかったと思います。患者さんのお言葉にスタッフ一同、激励を頂戴しました。</p> <p>今後もさらに良いケアができるよう精進いたします。</p>  <p style="text-align: right;">回答：6A 病棟</p>
<p>ご意見</p> <p>4 人部屋のトイレのゴミ箱が小さすぎてすぐに満杯になります。また、8 階病棟に入院していますが、通路の至る所にゴミが目立ちます。環境衛生の観点から、看護師を含め、ゴミ等に気付いた際は拾うようお願いいたします。</p> 	<p>回答</p> <p>この度は当院にご入院された方にご不快な思いをさせてしまい、大変申し訳ございません。多床室内のトイレ床にゴミが散乱しているとのことですが、こちらは 8 階病棟担当者と共に現状確認を実施、トイレ内の点検頻度の回数を増やすように周知し、再発防止に努めてまいります。</p> <p>「ゴミ箱が小さい」という問題に関しましては、容量の大きいゴミ箱の設置等の改善策を検討いたします。</p> <p style="text-align: right;">回答：管理課</p>

編

集

後

記

紫陽花が雨に濡れていっそう輝く季節になりました。憂鬱な雨の休日…といきたいところですが、野球ファンにとっては、天気予報と順位表を眺めては一喜一憂する忙しいシーズンの到来です。6月といえば、セ・パ交流戦。普段は見慣れない相手との対戦に、ファンもリーグの意地をかけて血が騒ぐ時期です。聞きなれない相手球団の応援歌を予習して挑むものの、未知の強敵との遭遇に思わず手に汗握る展開も多いはず。そんな熱戦が続く毎日ですが、試合に熱中するあまり水分補給を忘れてはいけません。室内での応援も、熱気がこもれば意外と体の中は水分不足になりがちです。「熱い応援と、こまめな水分補給」が、この時期を元気に過ごすための秘訣です。

ジメジメとした日が続きますが、皆様も適度にアドレナリンを出しつつ、体調管理もしっかりして、この時期を乗り切りましょう。次号が出るころには、皆様の心もチームの順位も、スカッと快晴であることを願っております。



放射線技術部 さわぐち ちあき
澤口 千明



昭和医科大学
SHOWA Medical University

昭和医科大学江東豊洲病院 <http://www.showa-u.ac.jp/SHKT/>

〒135-8577 東京都江東区豊洲 5-1-38

TEL03-6204-6000(代表)

発行責任者：横山 登 編集責任者：大槻 克文



昭和医科大学江東豊洲病院
ホームページ

SHOWA Medical University KotoToyosu Hospital